

JAバンク栃木における地域密着型金融の取組状況（平成 25 年度）

JAバンク栃木（栃木県下JAと農林中央金庫宇都宮支店）では、農業と地域社会に貢献するため、平成 25～27 年度JAバンク栃木中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

この度、平成 25 年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

1 農山漁村等地域の活性化のための融資を始めとする支援

（JAバンク栃木の農業メインバンク機能強化への取組み）

JAバンク栃木は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

（1）農業融資商品の適切な提供・開発

JAバンク栃木は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

平成 26 年 3 月末時点のJAバンク栃木の農業関係資金残高^{（注1）}は 35,366 百万円（うち農業経営向け貸付金 15,999 百万円）、日本政策金融公庫等の受託貸付金^{（注2）}残高は 6,844 百万円を取り扱っています。

（注1）農業関係の貸出金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

（注2）JAバンク栃木が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。受託貸付金残高には、JA転貸分を含みます。

【営農類型別農業資金残高】 単位 百万円

営農類型	26 年 3 月末現在
農業	15,999
穀作	5,546
野菜・園芸	5,141
果樹・樹園農業	1,363
工芸作物	67
養豚・肉牛・酪農	3,860
養鶏・鶏卵	21
養蚕	2
その他農業（注1）	6,928
農業関連団体等（注2）	12,439
合計	35,366

（注1）「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれています。

（注2）「農業関連団体等」には、JAや全農（経済連）とその子会社等が含まれています。

【資金種別別農業資金残高】

単位 百万円

種 類	26年3月末現在
プロパー資金 (注1)	28,468
農業制度資金 (注2)	6,899
農業近代化資金	4,791
その他制度資金 (注3)	2,108
合 計	35,366

(注1) プロパー資金とは、JAバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

(注2) 農業制度資金には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体等が利子補給等を行うことでJAバンク栃木が低利で融資するもの、③日本政策金融公庫等が融資するものがあり、ここでは①③の転貸資金と②を対象としています。

(注3) その他制度資金には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

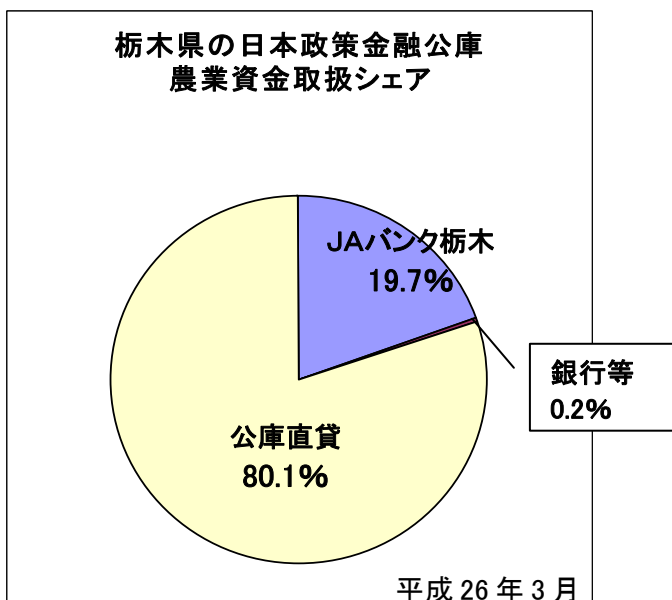
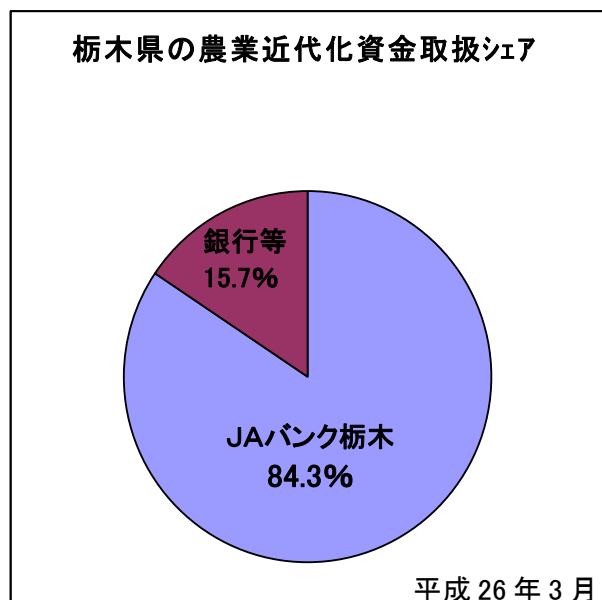
【農業資金の受託貸付金残高】

単位 百万円

種 類	26年3月末現在
日本政策金融公庫資金	6,844

(注) JAバンク栃木では、主にはJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

JAバンク栃木は主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【栃木県の農業近代化資金および公庫受託貸付のシェア】


(2) 担い手のニーズに応えるための体制整備

JAバンク栃木では、地域の農業者との関係を強化・振興するための体制整備に取り組んでいます。

JAでは、本・支店（本・支所）の農業融資担当者が、営農・経済担当者が農業者からお聞きした情報も含めて把握して、農業融資に関する訪問・資金提案活動を実施しています。また、県内10JAの本・支店（本・支所）には70人の「担い手金融リーダー」が設置され、支店の活動をサポートしています。

農林中央金庫宇都宮支店では、JAの活動サポート・指導機能、農業法人等への融資相談機能を担う「県域農業金融センター機能」を構築し、これらの機能の拡充、強化を実施しています。

(3) JA内事業間連携の強化

農業者の多様なニーズにJAをあげて応えていくため、営農・経済事業等との合同会議・研修会の開催や農業者への同行訪問等により、これまで以上に、JA内事業間連携を強化しています。

【具体的取組み事例】

a 第9回JAバンク栃木担い手金融リーダー会議

開 催 日	平成26年3月12日
主 催 者	農林中央金庫宇都宮支店
参 加 対 象 者	農協役職員
参 加 人 数	74名
内 容	農家支援の取組強化を図ることを目的に、農業融資担当者および営農・経済渉外担当者を参集し、開催しました。会議では、サンファーム・オオヤマ(有)取締役会長大山寛氏を講師に迎え、農業経営の取組みについて理解を深めました。



b 第14回パワフルアグリフェア

開催日	平成25年7月20, 21日
主催者	JAグループ栃木
総来場者数	県内外より6,261名
内容	パワフルアグリフェア(JAグループ栃木農業機械等統一展示会)に参画し、会場内に設置したJAバンクコーナーにおいて、農業資金等のPRおよび借入相談対応等を実施しました。



(4) 6次産業化に向けた農商工連携の推進

(社)とちぎ農産物マーケティング協会主催の商談会を、農林中央金庫宇都宮支店が全農とちぎ、栃木県と共に共催し、生産者・JAと加工流通業者との橋渡しを行うなど、6次産業化に向けた農商工連携に取り組んでいます。

【商談会開催状況】

商 談 会 名	第7回栃木県農産物等展示商談会
開 催 日	平成26年1月29日
主 催 者	(社)とちぎ農産物マーケティング協会
参 加 団 体 数	182団体
参 加 人 数	県内外より約2,000名
内 容	本県産の農産物や食品の販路拡大を目的とした展示・商談会を、宇都宮市マロニエプラザにて開催し、栃木の食文化発展による地域経済の活性化に取り組みました。



2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援

JAバンク栃木は、担い手をサポートするため、ライフサイクルに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 新規就農者の支援

JAバンク栃木では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、就農支援資金などを取り扱っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】

単位 件, 百万円

資金名	平成 25 年度 実行件数	平成 25 年度 実行金額	平成 26 年 3 月末 残 高
就農支援資金	12	95	769

【具体的取組み事例：JA しおのや 新規就農者育成研修事業】

JA しおのやにおいては、平成 24 年 7 月に JA 出資型生産法人として(株)グリーンさくらを設立しました。農作業受託業務を軸に、農畜産物の生産加工販売も行っております。同法人は、JA 自らが担い手となることで、高齢化等により営農の持続が難しい担い手に代わって農地を維持する役割を担うほか、新規就農希望者を受け入れ、農業実務研修を実施するなど、地域農業の活性化に向けた事業を展開しております。

平成26年度 塩野谷農業協同組合新規就農者育成研修生募集要項

【抜粋】

1 目的

塩野谷農業協同組合（以下「JA しおのや」という）管内（矢板市・さくら市・塩谷町・高根沢町）で新規就農する者を育成・確保するため、「塩野谷農業協同組合新規就農者育成研修事業」（以下「事業」という。）の農業研修生を募集する。

2 事業

(1) 事業主体

JA しおのやが事業主体となり、(株)グリーンさくらが委託を受けて研修実務を行う。

(2) 事業システム

農地・ハウス・水利・堆肥・農家の技術など、地域にある資源を農業をやりたいという希望者（新規就農者）が活用・継承するシステムを追求する。

(3) 行政（国・県・市・町）と一体となった確保・育成システム

募 集

研修期間中の県支援 県・市・町・JA 一体となって確保（広報誌・ホームページ・役職員情報等）
 独立の為の支援策 県農業振興事務所（病害虫防除・農業取扱、施肥設計、簿記、パソコン・その他）
 農地・ハウス・機械・住居等の斡旋支援・・・市・町・JA

独立後の支援策

（交流・ネットワーク作り） 地域及びJA 部会等の一員として、地域の中に溶け込むための支援、技術・資金・経営管理面のサポート（JA 各種事業の活用）新規就農者支援部会の創設（県農業振興事務所、各市町、JA）

3 募集内容

(1) 応募資格

次の全てを満たす満年齢が18歳以上、原則45歳未満の個人とする。

ア、心身ともに健康であること

イ、農業に対する固い意志と意欲がある農業後継者や新規就農希望者等。

ウ、研修後もJA しおのや管内で居住し、一定期間（10年）就農できる者。

(2) 募集人数

研修生は別に定める「塩野谷農業協同組合新規就農者研修事業実施要領」（以下「実施要領」という。）により、10名程度を募集する。

【中 略】

5 待遇

研修生は、実施要領の規定により、次の条件で研修にあたる。

①研修期間中は研修手当として月額10万円程度を支給する。なお、労働保険・雇用保険（事業主負担分）については、JA しおのやが負担する。ただし、交通費・健康保険は研修生本人が負担する。

②作業服や長靴等は研修生が自分で用意する。

③研修期間中であっても、研修者本人の研修態度・意欲・将来性等に問題があると判断される場合には、研修を中止することもある。

6 研修作物

JA しおのやが推奨する重点作物とする。

7 研修期間

研修期間は平成26年4月～平成27年3月までの1年間とする。ただし、本人が希望し、JA しおのやが認めた場合は、研修期間を延長することができる。

(2) 経営不振農家の経営改善支援

JAバンク栃木では、負債整理資金の対応にあたり、関係機関と協議するなど、農業者の経営再建に向けて取り組んでいます。

【平成 25 年度の農業者の経営改善支援等の取組み実績】

単位 先

		期初経営改善 支援取組先			事業計画策定 率 = a / A	ランクアップ 率 = b / A
		A	Aのうち再生 計画を策定し た先数 a	Aのうち期末 に債務者区分 がランクアップ した先数 b		
正常先①		50	2	/	48	4.0%
要 注 意 先	うちその他要注意先②	115	3	15	95	2.6%
	うち要管理先③	4	0	0	4	0.0%
破綻懸念先④		25	5	1	23	20.0%
実質破綻先⑤		45	0	0	43	0.0%
破綻先⑥		1	0	0	0	0.0%
小計(②～⑥の計)		190	8	16	165	4.2%
合計		240	10	16	213	4.2%

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は平成 25 年 2 月末時点でのものです。

(3) JAバンク栃木講演会・セミナー等の開催

JAバンク栃木および栃木県農業法人協会主催により、農業法人経営者や系統団体等を招いたセミナーを開催し、異業種間の情報交流を促進しています。

【具体的取組事例】

セミナー名	平成 25 年度 栃木県農業経営セミナー
開催日	平成 26 年 1 月 16 日
主催者	JAバンク栃木, 栃木県農業法人協会
参加対象者	農業法人経営者, 農協役職員, 行政, 関係団体 等
参加人数	87 名
内容	<p>第一部 「JAバンクの6次産業化促進の取組みについて」 講師 農林中央金庫 農林水産環境統括部</p> <p>第二部 「強い農業 生き残る経営者」 講師 農業ジャーナリスト 青山 浩子 氏</p> <p>第三部 交流会</p>



3 経営の将来性を見極める融資手法を始め、担い手に適した資金供給手法の提供

JAバンク栃木では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) 負債整理資金による負担軽減支援

JAバンク栃木では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【平成 25 年度末負債整理資金の貸出状況】

単位 百万円

資金名	平成 26 年 3 月末残高
農業経営負担軽減支援資金（注 1）	4
畜産特別資金（注 2）	107
畜産経営維持緊急支援資金	55
合計	166

(注1) 農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。

(注2) 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換え資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

JAバンク栃木では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。

(1) 災害被災者への支援

JAバンク栃木では、自然災害の被災者を支援するため、災害対策窓口を設置したほか、災害対策資金の創設や個別融資先の経営状況に応じて償還条件の緩和等に対応しました。

単位 件, 百万円

取組事例	JA名	内容	件数	貸付実行金額
凍霜害に伴う災害資金	JAうつのみや	平成25年4月下旬の降霜及び低温により、農作物(梨)に被害を受けた農業者に対し、JA及びJAグループの利子補給による無利子の資金で対応しました。	2	2
平成25年10月16日の台風26号による被害農漁業者に対する災害経営資金	JAうつのみや	台風で農畜産物の被害を受けた農業者に対し、JAグループ及び行政の利子補給を受けた無利子の資金で対応しました。	1	3
平成26年降雪害対策特別支援資金	JAかみつが	平成26年2月の降雪により被害を受けた管内農業者に対して、農業経営に必要な資金、生活維持に必要な資金をプロパー資金で融通し、生活および農業経営の安定を図りました。	5	20
東日本大震災に係る災害資金の対応	JAはが野	東日本大震災の被災者を対象とした災害復旧支援資金を制定し、低利の資金を融通することで復旧支援に対応しました。	152	329
平成25年凍霜害に係る災害資金の対応	JAはが野	凍霜害の被災者を対象とした災害復旧支援資金を制定し、低利の資金を融通することで復旧支援に対応しました。	38	86
家畜飼料特別支援資金	JAしもつけ	配合飼料価格の上昇に対応し、畜産経営に対する飼料購入に要する資金貸出を行い、畜産の安定的発展を図りました。	1	35
がんばろうとちぎの農業緊急支援資金	JAしもつけ	東日本大震災に伴い東京電力福島原発事故の放射線風評被害による市場価格の下落、出荷停止損失のため、資金対応を行いました。	3	20
東日本大震災復旧等支援資金	JAしもつけ	東日本大震災に伴い東京電力福島原発事故の放射線風評被害による市場価格の下落、出荷停止損失のため、資金対応を行いました。	2	6
がんばろうとちぎの農業緊急支援資金	JA足利	東日本大震災に伴い東京電力福島原発事故の放射線風評被害による市場価格の下落、出荷停止損失のため、資金対応を行いました。	5	19
東日本大震災 災害資金	JAしおのや	東日本大震災で被災を受けた組合員に対し、農林中央金庫による利子補給を受けた低利資金で対応しました。	2	7
平成25年10月台風26号被害災害資金	JAしおのや	平成25年10月16日に発生した台風26号の被害により被害を受けた組合員への対応として、JAグループおよび栃木県からの利子補給によるプロパー資金を制定し、被災者への対応を行いました。	6	18
災害条例資金	JAしおのや	平成25年10月16日に発生した台風26号の被害により被害を受けた組合員への対応として、JAグループおよび栃木県からの利子補給による県制度資金により、被災者への対応を行いました。	6	16
東日本大震災被災者に対する災害資金	JAなすの	大震災被災者へ行政の利子補給を受けた制度資金等と、簡易な手続きで対応できる低利のプロパー資金の取扱いを実施しました。	80	211
平成25年4月降雹被害者に対する災害資金	JAなすの	降雹による被害者へ低利で、制度資金より簡易な手続きで対応できるプロパー資金を、農業資金・生活資金等を対象に取扱いを実施しました。	2	2
平成25年4月凍霜害被害者に対する災害資金	JAなすの	凍霜害による被害者へ行政の利子補給を受けた制度資金と、簡易な手続きで対応できる低利のプロパー資金の取扱いを実施しました。	21	50
平成25年台風26号被害者に対する災害資金	JAなすの	台風による被害者へ低利で、制度資金より簡易な手続きで対応できるプロパー資金を、農業資金・生活資金等を対象に取扱いを実施しました。	7	8
平成25年凍霜害対策資金	JAなす南	平成25年4月中旬の低温による作物の被害を受けた組合員に対し、行政の利子補給を受けた低利の資金で対応しました。	25	75
合計			358	907

(2) JAバンク食農教育応援事業の展開

JAバンク栃木は、地域の子どもたちに農業への理解を促進するため、JAバンク食農教育応援事業を展開し、農業に関する教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験の受入れ等に取り組んでいます。

教材「農業とわたしたちの暮らし」は、JAバンクを通じて、県下の小学校 392 校へ 23,270 冊配布され、授業等において活用されています。

また、県下JAでは、下表のような食農教育などの実践活動に取り組んでいます。

【JAバンク食農教育応援事業による活動内容】

JA名	活動名	活動内容
JAうつのみや	農業体験教室 (アグリスクール)	小学生を対象に、野菜の収穫体験や稲刈りの農業体験を通じ、農業の理解・関心を深める取り組みを行いました。
JAかみつが	農業体験学習	小学生を対象に、学校農園で農作物づくりの農業体験や稲刈りを通じ、農業の理解・関心を深める取り組みを行いました。
JAはが野	農業体験教室 (未来ちゃんクラブ)	小学生を対象に、JA管内（真岡・二宮・益子・茂木・市貝・芳賀）ごとに、それぞれの地域の特色を持った農業体験を行いました。
JAしもつけ	農業体験学習	園児・小学生を対象に野菜の定植・収穫体験やぶどうつみとり体験、地元の野菜を使った調理実習を行いました。
JAおやま	農業体験学習	小学生を対象に管内産の食材を使った親子クッキングを実施し、農業や食料への関心を深める取り組みを行いました。
JA佐野	農業体験教室 (あぐりスクール「夢」)	小学生を対象に田植え、野菜の定植・収穫体験や地元の野菜を使った料理教室を通じて、農業への関心を高める取り組みを行いました。
JA足利	農業体験教室 (あぐりキッズクラブ)	小・中学生を対象に、味噌作りやバケツ稲づくりに取り組み、育成過程の観察を通じて食農教育活動を行いました。
JAしおのや	農業体験学習	園児・小学生を対象にサツマイモの定植・収穫やバケツの稲づくりの農業体験を通じ、農業の理解・関心を深める取り組みを行いました。
JAなすの	農業体験教室 (なっちゃんクラブ)	小学生を対象に、農作物（落花生、大根、そば等）の種まきから収穫、調理して食べるまでの農業体験や調理実習を行いました。
JAなす南	児童作品展覧会	園児・小中学生を対象に、農業を題材とした書道・絵画をJAまつりに展示しました。また、地産地消の取り組みとして学校給食への食材提供を行いました。

以上